

# (4) 織田信長黒印状

〔天正三年（一五七五） 小早川左衛門佐（隆景）宛〕

就北国逆徒等令退治  
示給候、殊太刀一腰馬  
一疋懇切之至候、彼地之躰  
先書申送之条、不及重  
説候、悉以明隙候間去月  
廿六日納馬候、近日可為上  
洛之条、猶自京都可申  
述候、猶二位法印可申候、  
恐々謹言、

十月二日 信長（黒印）

小早川左衛門佐殿

（切封ウハ書）

「小早川左衛門佐殿 信長」

読み

北国逆徒等退治せしむるにつき示し給ひ候、ことに太刀一腰と馬一疋懇切の至に候、彼地の躰先書申し送るの条、重ねて説くに及ばず候、悉く以って隙き明き(すきあき)候間、去月廿六日納馬候、近日上洛たるべくの条、猶京都より申し述べべき候、猶二位法印申すべく候、恐々謹言、

十月二日 信長(黒印)

小早川左衛門佐(隆景) 殿

(切封ウハ書)

「小早川左衛門佐殿 信長」

北国逆徒（越前一向衆）等を討伐した  
 ことについて手紙をいただきました。  
 （それにあわせて）太刀一振りと馬一足  
 を頂戴し感謝しています。討伐の様子は  
 先に書状で送ったとおりなので重ねて  
 説明することはありません。すべて決着  
 がつき先月（九月）二六日に（岐阜へ）  
 帰陣しました。近日中に京へ上がります  
 ので、京都から手紙を出します。このこ  
 とは（使者の）二位法印（右筆の武井夕  
 庵）が申します。

長く続いていた一向一揆について、天  
 正三年（一五七五）八月、信長は自ら越  
 前へ出陣して壊滅させ、九月二六日に岐  
 阜に帰陣しました。毛利側から進物とし  
 て太刀と馬を贈られ、小早川左衛門佐  
 （隆景）に対して感謝の気持ちを表わし  
 ています。